

かけしたじょう
欠下城跡

所在地 新城市矢部
(北緯34度55分25秒 東経137度30分17秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成20年4～5月

調査面積 100㎡

担当者 宮腰健司・早野浩二



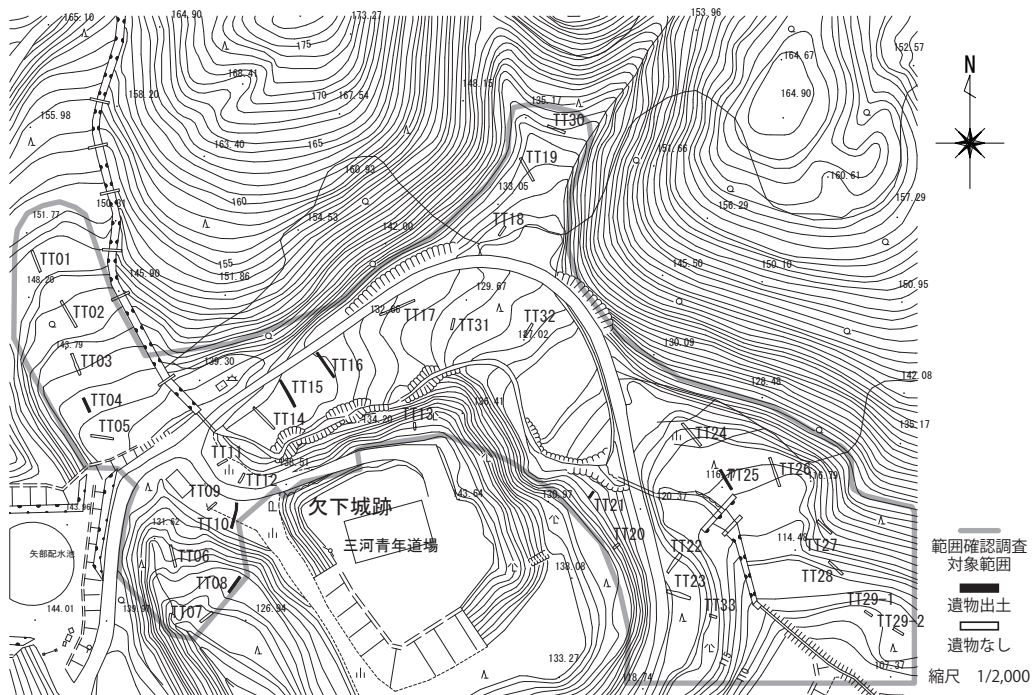
調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成20年4～5月、調査面積は100㎡である。

立地と環境 欠下城跡は、矢部集落の北方、雁峰山から派生する丘陵地に立地する山城で、市史跡に指定されている。築城時期や城主は不明である。主郭があったとされる尾根の頂部には三河青年道場が建設され、その周囲の平坦地には支郭があったとも推定されている。丘陵は幾つかの小谷によって分割され、小谷には砂防堤の水路が構築されている。

調査の概要 今回の範囲確認調査は、(推定)主郭の周囲を対象としたものである。試掘坑は(推定)主郭の北西の小谷内にTT01～TT05、西方の小谷内にTT06～TT08、石碑周囲の平坦地にTT09～TT12、北方の平坦地にTT14～TT17・TT31・TT32、北東の小谷内にTT18・TT19・TT30、(推定)主郭周囲の平坦地にTT13・TT20～TT23・TT33、東方の小谷内にTT24～TT29(計33地点)を設定し、遺構・遺物の有無等を確認した。

まとめ 今回の範囲確認調査の結果、尾根状となるTT09～TT12付近には、中世前期の遺物包含層が安定して堆積している可能性が高いと推測された。また、「欠下城跡」に直接関係する遺構は確認されなかったが、範囲確認調査のみによって城跡の性格を明らかにすることは難しく、より詳細な検討が必要である。(早野浩二)



試掘坑配置図